

新たな観光の核づくり認定事業(第2回分) 二次審査に進む提案一覧

※「提案の名称」、「対象地域」、「提案の概要」は、提出のあった提案説明書の内容を転記したものです。

提案の名称	提案者名	対象地域	提案の概要
<p>大山魅力再発見「平成大山講」プロジェクト ～体感！悠久の歴史・安らぎの霊峰大山～</p>	<p>大山観光振興会 伊勢原市 産業能率大学 小田急電鉄株式会社 神奈川中央交通株式会社 大山観光電鉄株式会社</p>	<p>伊勢原市大山・ 日向地区、 秦野市蓑毛地区・ ヤビツ峠</p>	<p>大山街道の両脇に並ぶ先導師旅館は、玉垣が築く造形により特徴ある歴史的町並みを形成している。沿道には、かつて、大山参詣の折、禊を行った瀧がほどよい間隔に落水し、谷あいの街道に心地よいリズムをつくり出す。その音色は癒しの世界につながる。さらにこうした風情は、旅館を飾る板まねきなどと相まって、街道全体を江戸情緒あふれる歴史空間として特徴づけている。これは庶民の生活文化、歴史的芸術でもあり、大山街道には、こうした歴史が今に生きづき、さらに街道全体が「町並み・街道博物館」として、位置づけられる。そこには、今でも人を引きつけるマグネット力が生きづいている。</p> <p>対象地域は、丹沢大山国定公園に指定され、その豊かな自然環境に加え、古くは江戸、明治、大正、昭和と各時代に蓄積されてきた歴史的、文化的遺産が集積している。こうして長い歴史に培われ多くの人を魅了してきた歴史的観光地「大山」の地域ならではの資源＝魅力を再発見・再評価し、活用・発信することで、かつて「大山講」でにぎわった江戸期のように、多くの人が訪れ賑わいある観光地づくりを進める。そこでは、人と人との出会い、ふれあい、交流を軸に、おもてなしの心で観光客を受け入れる。そのため新たな気配りの心として、グローバルな接遇を身につけ、外国人観光客に対し、日本文化再発見の先駆地とし、歴史体験と安らぎの場として国際観光地「大山」の実現を目指す。</p>
<p>三つの舞台を中心にニューツーリズムによる 日本一の保養地再生</p>	<p>大磯町 (社)大磯町観光協会 大磯町商工会</p>	<p>大磯町</p>	<p>大磯町は、平安時代末期には相模の国府が置かれ、江戸時代は東海道の宿場町として、明治以降は東海道線の開通や日本初の海水浴場の開設により、政財界人や文化人の別荘が建てられ、首都近郊の気候温暖な避暑地・保養地として栄えた。明治41年の日本新聞社実施の全国避暑地百選では大磯町が第一位に選ばれている。</p> <p>江戸時代に鳴立庵を創設した崇雪によって建立された標石の裏に「著盡湘南清絶地」と刻まれ、大磯は「湘南」発祥の地と言われている。この湘南を冠した「湘南国際マラソン」が大磯を舞台に毎年行われ、約2万人のランナーが湘南海岸沿いのコースを走り、応援に来られた同伴者と一緒で大磯の良さを満喫し、心身ともにリフレッシュをしている。</p> <p>保養地として多くの人に愛された自然環境、培われた歴史・文化環境等は、大きな改変を受けずに平成の時代に受け継がれてきている。また、大磯港の再整備や県立公園となった旧吉田茂邸の再建など新たな魅力が今後加わる。</p> <p>ゆっくりと時を刻んで磨かれてきた地域資源と今後新たに加わる地域資源、これらの地域資源を十二分に活かして、次のニューツーリズムなどの事業を展開し、大磯町を“強力なマグネット力”でスローライフが似合う国際保養地としたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大磯丘陵を舞台に「グリーンパーク」ニューツーリズムと6次産業化による観光保養地づくり ○邸園文化交流園(街道沿い)を舞台に「邸園文化+地域活動オープンガーデン」による地域密着型観光保養施設を創出 ○こゆるぎの浜を舞台に「ブルーパーク」ニューツーリズムと6次産業化による観光保養地づくり、英国のブライトン市との連携

<p>“交流する・アートする・発見する =いやしのSATOYAMA推進事業=”</p>	<p>一般社団法人藤野観光協会 藤野商工会</p>	<p>相模原市緑区 「藤野地区」エリア</p>	<p>コンセプト “藤野には、そこから来る人を穏やかに包んでくれる何かがある” 暮らしの国際交流 アート(創造)する 良質な空間を求めて</p> <p>藤野では、昭和61年から芸術村構想のまちづくりをコンセプトとしてまちづくりを推進してきた経過があり、海外からも多数のアーティストが移住し活動をしています。過去には、オーストリアから芸術を目指す若者のために、大使館を通じてこの藤野の古民家を利用したゲストハウスを置くなどで異文化国際交流が活発に行われていました。</p> <p>こうした背景があって、今なお外国人との交流の輪は広がり、養蚕を始めとする日本文化を伝承した作品作りなどさまざまな取組が展開されています。そんな藤野で、訪れた人思いの目的探しをしていただきたいと考え、藤野ならではの観光を提案するものです。</p> <p>☆「いやしのSATOYAMA」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・・・国際観光事業に向けて・・・ ◆「SATOYAMA」を国際語として普及 ◆「いやしのSATOYAMA」観光の内容 ・見物型旅行ではなく、“スローライフ型”で、自然、アートを通して心身リフレッシュを目的とした観光。 ・保養地環境でカウンセラーを通してセルフケア(健康管理)ができる観光。 ・「長期リピート型」が望ましく、これをエリア観光の特徴とする。
<p>三浦 海の学校/マリンレジャーステーション</p>	<p>株式会社エス・ティー・ワールド</p>	<p>三浦市三崎町諸磯</p>	<p>神奈川県三浦市三崎町諸磯にある施設を当社が購入、および改装を施し、新たに私営臨海学校及びマリンレジャー施設として運営します。</p> <p>臨海学校は、マリンレジャーの体験学習はもちろんのこと、海～磯～ビーチ～干潟～川～森という、周辺地域に凝縮された集水域生態系(小網代の森など)を自然に学ぶような環境体験型学習も行います。</p> <p>マリンレジャーは、磯遊び、シュノーケリング、シーカヤックからスキューバダイビングまで豊富なメニューを取り揃え、老若男女に海の楽しさを知ってもらいます。毎週末通って来られる首都圏至近のホームゲレンデとして機能し、都会人に「海のある暮らし」というライフスタイルを提案いたします。</p>